

## 港区観光ボランティアの会

港区観光ボランティアの会は、港区が実施している育成講座を修了した港区公認のガイドで作られている会です。「広報みとむ」などで募集する「参加者募集ツアー」と、お客様の希望する日時にガイドを派遣する「ガイド派遣サービス」を提供しています。詳細は、下記をご覧ください。

「港区観光協会」ホームページ  
(<http://www.visit-minato-city.tokyo/ja-jp/>)

### ガイド派遣サービス申込方法

1 港区観光協会ホームページにアクセスします。



2 右下の「ボランティアガイド」の「ガイド派遣サービス」をクリックします。

3 タイトルの下にツアーのリストが表示されますので、ご希望のツアーをクリックして選び、内容を確認のうえ「お申し込み」の項目に入力して、「送信する」をクリックください。



●申入人数:原則として2名以上、20名以内(小学生以上)

●申込時期:希望日の2か月前から20日前まで

●ガイドの手配が難しい場合もあることをご了解ください

ガイドは、港区南青山のJUNKO KOSHINO

デザイン監修のデ被を着用してご案内します。



本誌記載の情報は、発行後に変更になる場合もございますので、お出かけの際には、お電話等で事前にご確認いただくことをお勧めいたします。

問い合わせ 公区観光協会 ボランティアガイド担当 03-6809-5514(平日9~17時)

発行 一般社団法人 港区観光協会 東京都港区芝5-36-4

編集 港区観光ボランティアの会

発行年月 令和2年9月

a

## 幕末、黒船来航によって作られた お台場

### 菲山代官「江川英龍」の活躍

日本の開港を求めて各国の船が立ち寄る中、ペリー率いる黒船が米国大統領の親書を將軍に渡すべく、嘉永6年(1853)に浦賀に入港しました。江戸湾奥まで測量に入ったことに恐れをなした幕府は、海防に詳しい江川太郎左衛門英龍(1801~1855)に命じて対抗策を作らせました。江戸防衛のため御殿山下台場を含め12基、海上台場は品川から深川沖まで11基を作る計画が認められ、すぐに着工されて6つの台場をわずか1年あまりで作り上げました。5000人の人夫と2000隻の船を使い、石垣に使う石は伊豆や安房から、土は御殿山や泉岳寺の裏山から運びだして短納期で作り上げられたのは、設計から陣頭指揮まで行った江川英龍のおかげです。



伝江川英龍自画像  
(江川文庫所蔵)

b

## 芝浦が国内初の 海水浴場…?!

### 江戸時代、芝浦地区はそのほとんどが海でした。

当時は、江戸前の魚などが捕れる豊かな漁場で、芝浦で捕れた魚は「芝肴」と呼ばれ、将軍にも献上されたそうです。

明治時代には、新鮮な魚と房総半島を見渡せる風光明媚な海岸にも恵まれ、料亭や旅館が軒を連ねるリゾート地として栄えました。行楽以外にも海水浴(潮湯治)を目的に訪れる人もたくさんいました。

芝浦海水浴場は、明治11年(1878)に開設されました。当時の海水浴は病気療養や健康増進のため、海で泳ぐではなく海水を沸かした湯に浸かるというものです。

伊豆斐山の代官として領民に善政を行い「世直し江川大明神」と慕われており、世界遺産にもなった「斐山反射炉」も並行して建設し、多くの幕府のお役目をはたして大活躍でしたが、過労もあり台場完成のすぐ後に満53歳で亡くなりました。「回れ右」などの号令を発案し、日持ちする乾パンを開発してパンの祖とも言われています。

翌年3月のペリー再来で「日米和親条約」が結ばれて、台場は計画半分で中断して実際は使われませんでした。埋立て地に吸收されたり取り壊されたりして、現存するのは第三a1と第六台場a2の2つだけです。第三台場a3として開放されており、お台場一帯の展望もよいお勧めの訪問地です。

芝浦海水浴場が有名になると、周辺には料亭や旅館が多く並び、芝浦花街が発展しました。

リゾート地として栄えた芝浦も東京港港湾整備の一環として、明治39年(1906)から埋立てが始まり、海水浴場も最大の売り物であった海岸線の景観が失われ、料亭や旅館も軒並み廃業しました。

現在は、「重箱堀」b1と称され、大正2年(1913)に芝浦運河の船溜りとして整備された石積護岸となっています。

c

ベイエリア「昭和の倉庫街から平成の高層住宅街へ」

ベイエリアは埋め立てによって開発された街です。埋め立てとともに港からの物資輸送のための水路として運河が作られ、運河沿いには運ばれてきた物資を保管するための倉庫がたくさんありました。

昭和初期の芝浦桟橋

昭和に入り、汐留駅から芝浦駅までを結ぶ貨物専用の芝浦臨港鉄道が開通し、昭和40年代の高度経済成長期には170万トンもの貨物を取り扱うようになりました。しかし、コンテナ船やフェリー就航などの輸送革新が進み、陸上貨物は鉄道輸送からトラック輸送に転換しました。その後、バブル期のウォーターフロント開発により、空き倉庫がディスコやライブハウスとして利用される倉庫街は一時的な脚光を浴びることとなりました。

レインボーブリッジ

昭和初期の芝浦桟橋

昭和に入り、汐留駅から芝浦駅までを結ぶ貨物専用の芝浦臨港鉄道が開通し、昭和40年代の高度経済成長期には170万トンもの貨物を取り扱うようになりました。しかし、コンテナ船やフェリー就航などの輸送革新が進み、陸上貨物は鉄道輸送からトラック輸送に転換しました。その後、バブル期のウォーターフロント開発により、空き倉庫がディスコやライブハウスとして利用される倉庫街は一時的な脚光を浴びることとなりました。

レインボーブリッジ

昭和初期の芝浦桟橋

